

記者会見要旨

日 時：平成 21 年 5 月 27 日（水）午後 4 時 30 分～午後 4 時 45 分

場 所：J A S D A Q プラザ記者会見場

出席者：安東会長、増井副会長、大久保専務理事

冒頭、増井副会長から自主規制会議及び理事会の審議事項等の概要について、大久保専務理事から証券戦略会議の審議事項等の概要について、それぞれ説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

公認会計士によるインサイダー取引について質問させて欲しい。監視委員会によれば、会計士は野村証券の社員から情報を入手したとされているが、日証協の従業員規則にある「秘密の漏洩」に該当する可能性もあると思う。日証協としての今後の対応等について会長の見解を伺いたい。

（安東会長）

今、質問があったとおり、公認会計士によるインサイダー取引に関して、野村証券の社員による情報の提供があったと監視委員会により認定されたことは誠に残念なことである。

この事件が、ちょうど昨年と同証券の中国人社員によるインサイダー事件と同じ年に発生しているということであるが、その時に同証券においては、防止策を策定したところでもあるので、同証券においては当該防止策を徹底して欲しいと考えている。

今、ご指摘いただいた「秘密の漏洩に該当するのではないか」ということに関してであるが、本件の行為の内容を審査した上で、当該行為が「秘密の漏洩」に該当する場合には、当該社員を処分の対象とすることも今後の問題としてはあろうかと思う。ただ、現段階において、そこまで本協会が正確に事実を確認していないので、一定の手続きを踏んだ後に方向を検討して参りたい。

（記者）

先日、「新興市場のあり方を考える委員会」により提言がまとめられ、当該提言には市場統合に向けた取引所再編の検討や、問題企業の情報共有なども含まれているが、提言を受けての会長の見解を伺いたい。

(安東会長)

この委員会には、私も数回出席させていただいた。先日、主査の大崎氏から記者レクをしていただいたと聞いており、既に中身については、ご承知だと思うが、いずれにしろ、様々な関係者、取引所、学識経験者、その他証券会社等々の方々におかれては、比較的長期間にわたり何度も会合を開いていただいた上、提言という形に導いていただいたことについて、感謝をしている次第である。

今、ご指摘のあった取引所の統合等の問題については、私どもが直接これに関与する立場にはないと考えているが、提言されたことについては、本協会で行えることから行って参りたい。例えば、金融庁や経済産業省も含まれると思うが、当局に対する様々な働きかけができるだろうと思っている。

また、報告書の中に、機関投資家の参加を促すべきという提言があったと思うが、機関投資家が参入するためには、アナリストレポートは必須であると考えている。現在の新興市場において、アナリストレポートが出されている企業は非常に少ないという状況だと思うので、これらを拡充するための議論は既に本協会内において始めている。

その他も色々あると思うが、新興市場の入り口は間口を広くして、入った後を厳しくするというコンセプトで、受け皿的な市場としてのフェニックス制度、グリーンシート制度の整備を含めて、できるところから進めて参りたい。

(記者)

BNPパリバ証券について処分等を検討されていると思うが、現在の検討状況について伺いたい。

(安東会長)

規律委員会が当初の予定からずれ込んで、6月に開催されることとなっているが、意図的に遅くしているわけではなく、メンバーのスケジュール等の物理的な問題によるものである。また、一部でBNPパリバ証券の虚偽報告の疑いについて報道されていたが、この辺りの動向も見ていく必要がある。いずれにしても次回の規律委員会である程度の方向性は出ると思う。

(記者)

安東会長の任期が通常であれば来月で切れると思うが、その後の手続き等について伺いたい。

(安東会長)

先日の人事推薦合同委員会において、私が来期の会長候補者ということで推薦されている。もちろん私だけではなく、常任理事等も本日の資料にあるとお

り推薦されている。今後は6月15日の定時総会で承認をいただいた後、来期の運営をしていきたいと考えている。

以 上